

松阪市
公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和 7 年3月

松阪市教育委員会事務局子ども支援研究センター

【三重県松阪市】
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	11,471	11,281	11,168	11,057	10,946
② 予備機を含む 整備上限台数	0	12,973	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	11,281	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	11,281	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	0%	0%	0%
⑥ 予備機整備台数	0	1,692	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	1,692	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	15%	0%	0%	0%
(端末の整備・更新計画の考え方) 令和2年度に導入した端末が令和7年度末でリースアップを迎えるため、令和8年4月から新しい端末を利用できる環境を整える。 (更新対象端末の処分について) ○対象台数:12,350 台 ○処分方法 ・賃貸借期間満了による返却:12,350 台 ○端末のデータの消去方法 ・賃貸借契約事業者が行う。 ○スケジュール(予定) 令和8年3月 賃貸借期間満了 令和8年4月 新規購入端末の使用開始 令和8年4月 使用済端末の事業者への返却 ※児童生徒数は令和7年度以降は推定となり、実際の人数とは異なる可能性があります。					

【三重県松阪市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

必要なネットワーク速度	学校数(校)	割合(%)
校内ネットワークの入口の帯域が推奨帯域を満たしている	47	100

※文部科学省「学校のネットワーク改善ガイドブック(令和 6 年 4 月)」に基づく調査

※市内小学校 36校、中学校 11 校

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

目標値	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10年度
無線 LAN 又は移動通信システム (LTE 等)によりインターネット接続を行う普通教室の割合	100%	100%	100%	100%	100%
ネットワークアセスメントの実施計画	8校	8校	8校	8校	8校
課題のある学校について改善を検討した学校の割合	—	100%	100%	100%	100%

【三重県松阪市】 校務 DX 計画

GIGA スクール構想の下での校務 DX について～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して(令和5年3月 GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議)の提言では、現在の校務システムが GIGA 時代・クラウド時代の教育 DX に適合しておらず、教員の働き方改革やデータ利活用に課題があると指摘している。

現在、本市では校務支援システムは未導入であるが、児童生徒が活用する様々な学習システムはすでに導入済みであり、各種システム間でデータ連携がスムーズに行われていないために、情報収集や分析が困難な状況である。

これらの課題を解決するために、今後パブリッククラウド型の校務支援システムを導入し、各種システムとの連携が可能となるデータ連携基盤を構築する。

また、教職員の柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、セキュリティ対策を十分に講じた上で、ロケーションフリーの校務環境の整備を行う。

FAX・押印の原則廃止に向け、学校からの申請をデジタル化する等、クラウドサービスを効果的に活用し、業務の効率化を図る。

【三重県松阪市】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

松阪市GIGAスクール構想において、「誰一人取り残さない」「経済格差が教育格差を生まない」を掲げ、令和3年1月から市内小中学校に通う児童生徒を対象に1人1台のタブレット端末（セルラーモデル）を貸与するとともに、校内には高速無線ネットワーク、教室には大型提示装置等を整備し、これら ICT 機器を日常的な文房具として活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、松阪市教育ビジョンに掲げる「未来を切り拓く力」を育成する。

2. GIGA 第1期の総括

本市では、令和2年度中に端末の利活用に関する研修会を行うとともに、同年度1月に端末の利活用をキックオフセレモニーとして、各学校において貸与式を行い、「端末の活用ルール」の周知徹底を行った。

翌3年度には、端末の持ち帰りを開始するとともに、オンライン学習日を設定し、全学校でのオンライン授業の取組を実施した。このことにより、コロナ禍における学校の一斉休校においても学びを継続することができ、「学びの保障」につながった。

令和4年度は、モデル校を小学校1校、中学校1校を指定し、授業での利活用においてのモデル発信を行った。また、同年よりGIGA端末を活用したイベント「まつさかGIGAフェスタ」を開催し、本市の課題である児童生徒のタイピングスキルの成果発表の場とするとともに、保護者・地域へのプログラミング学習などについての周知の機会とした。さらに同年より、アプリケーション費用の一部については保護者負担制度を開始した。

令和5年度は、デジタルドリルの取組モデルを公募し、家庭学習における「自己調整的な学び」についての研究を深め、取組事例の横展開を図った。イベント「まつさかGIGAフェスタ」にフォト・ムービーコンテストを加え、児童生徒の写真や動画の編集技術の向上を図った。

令和6年度は、文科省指定のリーディングDXスクール事業に参画し、市内1中学校と1小学校が指定校として、1人1台タブレット端末を活用した効果的な教育実践の創出・モデル化を目指し、公開研究会を実施した。また、デジタルドリルの取組について指定校区を設け、デジタルの強みを活かした学び方についての研究を深め、モデル発信を行った。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 誰一人取り残さない「学びの保障」の継続

第1期の松阪市GIGAスクール構想で大切にしてきた「誰一人取り残さない」「経済格差が教育格差を生まない」を継承し、セルラーモデル端末を採用することで、公平性を確保する。

(2)個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実

児童生徒一人ひとりの興味関心や学習進度、理解度に応じた個別最適な学びとともに、アプリケーションやツールの利用により協働的な学びの充実を図る。

(3)データ利活用による即時的・継続的支援

児童生徒の端末利用により蓄積される学習や心情など様々なデータの見える化を図ることで、児童生徒一人ひとりに応じた即時的・継続的な支援に生かす。

目標値	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
教育データの利活用を通じて、学習指導や校務効率化に取り組んだ学校の割合	50%	70%	75%	80%